京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十五年紀元二千五百七十二年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金六十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社　電話六六三番振替口座京城四五六番
仁川支局　仁川宮町三丁目　電話二一一番
東京支局　東京市京橋區南佐柄木町七番地

雜錄

●我輩の新年（一）

一月元旦記　温突の哲人

『巴理の屋根裏の哲學者』に眞似て吾が輩の温突新年觀を書いて見よう。

吾が輩は新年に對して何等の期待を持つて居らぬ、新年は何故に樂しきか、何故に嬉しきか、考へると馬鹿らしいものだ、廻禮が何んだ、お雜煮が何んだ、屠蘇が何んだ、吾が輩はそんなものに夢中になる程に愚劣な男ぢや無い寢るべしだ、よろしく一日を寢通すべしだ、幸に温突は未だホカ／＼と暖い平常は大の朝寢坊のお隣の奧樣、もう起きて居るらしい、臺所元の方で鍋茶碗皿水桶などの音がガチャ／＼と俗惡な音響をたてゝ居る、俗惡な響、確かに然うだ、卑陋な裸體美人の繪畫などは人間性慾の劣情を挑撥するが鍋と茶碗の響きも同じ事だ、確に食慾を誘發する、色慾と食慾、果してどれだけの相違があるか、天麩羅屋の前で唾汁を呑み込む奴と、美人を横目でソット見るのと、而し俗人共は其れを知らないのだ、馬鹿ナ、美人を見て心で之れを姦する徒輩は性慾の滿足を得て居ない證據で茶碗の音も又然りだ。

斯う考がへると俄かに胃の腑の欠乏を感じて來た、戸外は寒そうだ、一杯の汁飯に寒さを冒して出掛る程の價値は無い、寢る可しだ、奧の方が大分騷々しくなつて來た、笑ひ聲がするお目度うと奧さん連の御挨拶がある、而し茲で温突の周圍を書いて置く必要がある、お隣りは東拓のお役人、ナニお役人と云つても社長宇佐川閣下の方に縁故は無くて小使君と親密な臨時雇、而し奧さんはナカ／＼の近代的ハイカラで突出た廂髮と大きな目は夢二の繪には持つて來いの好モデルだ。

奧の方は總督府巡査を親方に三家族で即ち二三が六人、何れもヨボから日本の兩班サラメと尊敬せられて居る連中だ、奧さんの顏には長いのも圓いのもある、而し其挑發的資格と特長は各自に之れを備へて居て時とすると互ひに競爭して居るかと思はれる事もある。今日はお正月だ、定めし立派だろう、美しいだろう、長いのは長いなりに圓いのは圓い儘に黑いは白く青いはホンノリと櫻色に、各々お化粧を凝してご座るだろうと思ふと吾が輩チヨツト見て來たうなつた、がまた考へ直すと何んだ馬鹿らしい、こんな寒さに暖かい毛布の中から出で行つてまでも肉の匂を嗅いで來ねばならぬと云ふ必要は無いわけだ、必要はない、しかし私こそはと云ひたけにこの寒さにも係はらず短かい首を長くして居る其努力は、女心とでも云つて多少同情してやる價値がある樣にも思はれる、斯う思つて無性／＼に頭を擡げては見たものゝホンのお生憎には障子の破れ目を昨日貼り塞いだ許なので今更何んとも致し方が無いのだ。

●朝鮮總督府豫算

此程發表せられたる明治四十五年度豫算中朝鮮總督府特別會計豫算左の如し

	四十五年度	前年度比較增
歳入經常部	二六、七三二、三三二	二、三九四、九三六
歳入臨時部	二五、七〇九、八七七	一、〇三五、六七八
普通歳入、	七六三、三三七	七六三、三三七
公債募集金	一三、五九六、五四〇	二、七二二、三四一
補充金	一三、三五〇、〇〇〇	……
計	五二、四四二、二〇九	三、九三〇、六一四
歳出經常部	二九、七八二、四九〇	二、六五九、一六四
歳出臨時部	二二、六五九、七一九	一、六五一、一一三
計	五二、四四二、二〇九	四、三一〇、二七七

（備考）前表四十四年度豫算額中醫院に關する歳入歳出は本年度豫算額との對照上之を控除せしを以て其金額は前年度決定金額と符合せず

歳入增加の重なるもの左の如し

關稅	八六七、六八一
人蔘業及鹽業收入	四〇九、六五三
郵便電信及電話收入	四五三、四五六
鐵道收入	一、四三七、八九一
公債募集金	二、七二二、三四一
前年度繰入金	七六三、三三七

歳入減少の重なるもの左の如し

輸出稅及び移出稅一部廢止のため生ずる關稅の減收	四五〇、〇〇〇

歳出增加の重なるもの左の如し

專賣事業費の增加	一五四、〇〇五
地方廳經費の增加	二七二、〇八五
遞信費の增加	三三四、七四四
鐵道作業費の增加	一、〇九四、九七九
公債及借入金の利子等の增加	六五三、八七六
勸業費の增加	一五三、六七五
臨時土地調査費增加	六二三、〇七三
各種補助費の增加	五四六、一一四
海關工事費既定年制額の增加	二三三、三四一
京城水道改良及擴張工事費	一七〇、八三八

歳出減少の重なるもの左の如し

行政整理の減	四八一、〇六〇
道路修築費の減	五〇〇、〇〇〇

但し既定繼續本年度年制額の內五十萬圓を四十六年度に繰延べたるものなり

●新刊紹介

△武俠世界（第一卷一號）　冒險世界に文名を蠶かしたる押川春浪氏が新たに經營せるものにして春浪氏の冒險小說『空中夜叉』は例によつて奇絶快絶眞に立志的の讀もの『東洋豪傑荒尾精』は矢張春浪氏の講談にして一讀懦夫をして起たしむ可く此外英雄譚冒險譚何れも痛快ならしむるはなし（一部十五錢東京市日本橋區馬喰町二丁目興文社）

△外交時報（第十五卷第一號）　本號所載の重要記事は末廣博士の『所謂平和の眞因』田中華一郎氏の『獨逸に於ける官僚と政黨』茅原華山氏の『濠州は帝國唯一の植民地』林田龜太郎氏の『發ふべき英國の將來』等にして此外松宮氏の『一九一一年世界外交日誌』は政治家經世家の重寶となるもの也（一冊二十錢東京市赤坂區青山南町外交時報社）

△小學生（第一卷第十號）　新年大附錄として芳賀博士案如洗洸崖兩畫伯の筆になる小學すごろくあり美麗にして面白きこと限りなし記事は悉くお正月に因み趣味湧くが如き讀物を以て充さる（一冊五錢、東京市神田區表神保町同文館）

△ニコ／＼（一月號）　ニコ／＼主義を發揮せる記事多く牧野會頭の『仕事の上に仕事に追はるゝな』は處世上の一大教訓にして有賀博士の『希望の笑みこそ人生の力』ニコ／＼鼓吹の裡に服膺すべき眞理を含めり共に三誦すべし（本號に限り郵稅共十三錢五厘東京市新橋南金六町ニコ／＼俱樂部）

梁川庄八

第七十一回　小金井蘆洲演

勇吉は眠る所の話ではない、終宵考へて何うかして膏藥やさんに金を返したいが、何分金の出來ようがない、はて困つた事が出來たな、責めて金の置場でも分つて居れば、親の物だから一時融通の出來ぬこともない、併し何處へ親父は仕舞て置くか、勇吉も其在所は知らない、不圖考へ付たのは、遠縁の間柄で作右衛門と云ふものがある、是れは勇吉の家から半道ばかり隔つて新町と云ふ處の高持此作右衛門の娘に、お近と云ふ者があつて勇吉とは豫て親しい間柄でございます、作右衛門も兩人の間柄は知て居りますから、或時兩人に向ひ行く／＼は兩人を夫婦にして遣るが、長左衛門親父の存命中は丸で火の中に飛込ませるやうなものだから遣ることは出來ない、併し其中に何とか善い分別もあらうと云ひ含めて置きました、今日も今日とて勇吉は其お近を連れて參詣に參つた所が、村の者が寄て群つて勇吉を胴上げして行きました



お近は驚いて其場から跣足で立歸つて右の始末を作右衛門に話しました、難儀來娘の夫に爲やうと云ふものが、難儀に遇ふたと聞て作右衛門はなか／＼利かぬ氣の親父でございますから、短刀を一本打込んで道を急いで、駒ケ瀧の明神樣ね參りました、すると仙臺の膏藥やが中へ這入つて騷動も鎮まり、膏藥寶と同道で無事に立歸つたと聞きまして、作右衛門は大に悦び其儘自宅ね戻つて娘の安心するやうにと其話をした所が、娘も漸く胸を撫下して居ります、然う云間柄であるから勇吉は、此お近に話をして借りやうと心付いたゝ併し表から出ると親父が目を覺して小言を云ふかも知れぬから、後の縁りの無い庭口から忍出て、新町に行かうさ思ひまして廁に行く振をして、がらりと雨戸を明けたが、今夜は親父も熟睡して居ると見へて覺めぬ樣子、是れ幸さ窃と庭から忍出し表から雨戸を閉付けて、新町の作右衛門の家へ參りお近に遇て段々の次第を物語ると、お近も悦んで　お近「其膏藥屋さんの爲めに助かつたのは何よりの仕合せ悦しうございます　勇『所が其膏藥屋さんを家へ連れて行つて、お父さんに其話をして十兩の金を返して貰はふと思つたら、是れ／＼斯く／＼の始末私も親ながら愛想もこそも盡き果てた、膏藥屋さんは年は若いが却々勸辨の強い御方で、腹を立ちなすつた氣色もなく、夫んなら私は金は返して呉れんでも宜い進せると云なさる、すると俄に親父の機嫌がなほつてチヤホヤと世辭を遣つて居る、何うしてマアあんなに吝さかなのか呆れて了ふ、先方が然う云て呉れゝば、尙は更金子は返さなければならないから、お前に何とか相談をして金子を拵へよふと思つて、親父の寢息を窺つてそつと忍んで此處まで來た譯なのだが誠に濟まないが今云通りの次第だから頭の物なり着物なり暫く貸して呉ないか、夫を一時融通して金子を拵へて返そうと思ふから、何でも宜いから十兩丈の物を貸してお呉な』近「ラマア本當に困つた阿父さんね……夫れぢやあ勇さん妾が是れまで糸を引たり機を織たりして、貯めたお金が百兩許りありますから、其中を十兩丈阿父さんに云て貸して上げますから持つてお出でなさい、けれ共阿父さんは今夜は一杯飲んで宜く眠つて居ますが、朝は暗い中に起きますから、明日の朝早く御渡ししませう、茲に三兩だけ持合せがありますから、膏藥屋さんに餘り少ないが御禮に上げて下さいな』勇『夫れぢやあ誠に氣の毒だが然う云ふ事にして貰ひませう』と其夜は作右衛門の宅に一泊致しました、然るに此方は勇吉が出て行く其跡に面部を隱したる一人の曲者研ぎ澄ました出刄庖丁を携へて裏口へ忍込み、ズーと手を戸縁に掛けて引くと、何の苦もなく雨戸が開いたと云のは、勇吉が出て行くときに雨戸を表から閉付たまゝ行たのですから、容易に開いたのです、彼の曲者は仕合宜しと忍込んで鼻息を便りに長左衛門の寢室に近附いた、燈火は消へて眞の闇であるから、手探りに長左衛門の上に馬乘り跨つて仰向けに寢て居るの咽喉へ出刄庖丁をグサと突通し力に任せてグイ／＼抉つたから、アッと云間もあらばこそ虚空を摑んで息絶へました、曲者は右の出刄庖丁を拔取り、何一品盜みもせず表へ飛び出し、其庖丁は家の傍の溜池へ投込んで跡をも見ずに逃失せました、此曲者は抑も何者でございますか明日。

北京特電

▲軍資一千萬兩

媾和談判いよ〳〵破裂し皇帝退位も見合せとなり官革兩軍の決戰をなす事となりしに付て皇太后及其他皇族親貴より出費せる軍資金約千萬兩に及へる由にて袁世凱は此軍資を運用し今より五ヶ月交戰することを得べしと語れり

▲漢口官軍奮躍

目下漢口に集中しをれる官軍の總勢は既に二萬の多きに達し何れも奮躍して開戰の命令を待ちつゝあるの現況なれば一朝開戰して官軍渡江の曉は革軍は之を擊退し得るや否向後官革兩軍の擧動は頗る刮目に値ひす

▲革黨海軍建議

曩に革軍に投降したる軍艦中巡洋艦に屬する數隻は目下陽羅に碇泊し漢口には吃水淺き砲艦の止まれるのみなるを以て武昌攻擊は長江の水減せさる今日にあらされば不利なる旨革軍海軍參謀は黎元洪に建議したりといふ

▲皇帝蒙塵近し

媾和談判破裂するや朝野の騷ぎ一方ならざるに今や親衛軍中陰謀を企つるものあり皇帝蒙塵近く多分奉天ならんとの說高し

▲袁の地位安固

袁世凱は南方を武力を以て壓伏せんと決せし以來漸く親貴の信望を回復し宮廷の袁を渴望する事宛然救濟主に對する如く袁の地位愈鞏固となれり

▲注目すべき露と淸

露國公使と袁世凱との往復頻繁なり何等かの秘密條約成立せるにあらずやと觀測せらる

▲露淸銀行貸出

露淸銀行は淸國政府に對し五百萬兩を貸出し既に共條件を提供せり

▲伊集院公使不評判

淸國の動亂に關し伊集院公使は袁の要望に對し躊躇煑なきもの、如く在留民非難の聲高し

▲革軍の最後要求

伍廷芳は十日以內に南京に國會を開き最後の解決をなすべき旨北京政府に要求せしを以て袁世凱は八日之に關し閣議を開く

東京電報

▲宮中御歌會始め

宮中御歌會始は來る十八日を以て例の通り擧行さるべく讀師講師發聲講者等の諸役は近々御定めあるべき筈なり尙講師には從一位伯爵萬里小路通房氏に決定あらせらるべし

▲觀兵式行はれず

八日陸軍の觀兵式は陛下御風氣のため執行せざる事となれり

▲京奉線守備

灤州駐屯各國兵反亂のため京奉鐵道線北京山海關間は日英米獨佛五ヶ國の兵を以て分擔守備することゝなり日本は山海關灤州間に守備兵を配置し秦皇島には常盤磐手の二艦碇泊す

▲寒氣激甚となる

東京は二三日來寒氣特に激甚となれり

雜報

●行政整理說

總督府にては明年度豫算に於て行政整理費四十八萬圓を計上したるが右は官制改正に伴ふ行政整理に外ならず先づ其內容の一二を聞くに此際廢止さるゝ局課は總務部及取調局、各部庶務課等にして總務部廢止の結果總督官房に從來の秘書課及武官室人事課（局を課とし）文書課並に取調課を置き外事局會計局は舊の如くにて官房に屬すべく各部の庶務課は撤廢されて文書授受の節提を期すべく官房に新たに庶務課を設けられ尙各裁判所に於て大に人員の減少を見るべしと傳へらる

●地方廳增員計畫

總督府明年度豫算は地方廳費の增加として廿七萬二千八十五圓を計上したるが其內容につき洩れ聞く處によれば各道廳への職員增加は約八十名にして普通行政官として內地人の事務官並に技手書記の增員ありと云ふ

●總督の記者招宴

既報の如く六日午後六時より總督官邸に於て在京城新聞及び通信記者招待會あり定刻に至るや腕車を驅つて參會するもの二十余名陪賓として山縣政務總監、明石總長、小松長官、兒玉、桑原の兩秘書官、山形憲兵大佐、荻田書記官、藤田副官、境警視の諸氏にて鄭重なる食卓を設け宴酣なるや主人役なる寺內伯は起つて一場の挨拶を兼ねて左の如く述べられたり

萬象是より一新すべき此の新年の門出に際し新聞紙の記者及通信員諸君と共に相會して一夕の歡を盡すを得るは予の最も欣幸とする所なり諸君が常に朝鮮の統治に注意し之れに對し批評を試み時に或は論難を加へらるゝは社會の耳目一世の木鐸たる諸君の職責上尤も至極なる次第にして予は其の確乎たる事實に基く言論を歡迎するに吝ならざると同時に諸君が之れに由りて廣く朝鮮を紹介せらるるの勞を諒とす

本日は別段纏りたる御話を致す譯には非されども序ながら御參考までに一言したきは今日以後も併合以來聖旨を奉じて既に定めたる方針計畫を遂行して渝る所なきこと是なり而して其の方針計畫は已に屢々宣明したる通なるが新政の實施以來日尙淺きに拘らず幸にして諸般の經營は順調に進捗し農耕改良の結果は米穀大豆等に於て既往一年中一割乃至二割の增收を見るに至り棉作養蠶等の進捗も亦著しきものあり昨年中の貿易額は合計七千百七萬餘圓に達し四十三年に比すれば一割九分四十二年に比すれば三割四分の增加を示したり唯遺憾なるは輸入超加の趨勢に對し輸出の之に伴はざるの一事なれども輸入品の重なるものは產業の基礎なるべき機械類並に鐵道港灣に關する材料の外金巾其他の綿布類及石油砂糖麥粉等にして日常の需用品なるが故に亦以て民力增進の一現象と見るも差支なかるべし

一般經濟の發達に伴ひ政府の收入は豫定より約三百萬圓の增加を見るに至りしが是は來年度に於て悉く殖產興業上の施設に充當する等なり尙ほ進て米穀水產物木材其他重なる貨物に對する輸出稅を全廢するを以て產業の開發を促がす所以なりと認め之れによりて生ずべき約五十萬圓の缺陷を補ふべき財源を求めんが爲め既に縮少したる官制を更に一層整理するの外急速に之を斷行するの途なきを以て先づ其の整理方法を立て目下審議中に屬せり其の內容は未た發表するの時機に至らざれども兎も角出來得る限り政費を節減して之を殖產事業に移さんとする微意は玆に言明するを憚らざるなり

右終つて三鞭の杯を擧げて來賓一同の健康を祝するや峯岸本社長は來賓一同を代表し當夜の鄭重なる招宴を謝する旨の挨拶あり次て釋尾氏の朝鮮統治に關する希望演說等各自胸襟をひらいて歡聲湧くが如く昨年の夫れに比し非常の盛會を極め主客大に滿足談論時の移るを不知時に二三子の朝鮮統治に關する偶語あるや始終微笑を禁ぜざる寺內伯は一矢酬るは此の時と許り駄句つて曰く

『ご馳走を喰ふて叱り置く松の內』

如才なき伯の一矢に遙かに起る拍手喝采鳴りも止まざるに例の小松霞南君一絕を賦して

南山脚下會高樓、總是董狐太史儔
今夜休論政治事、但應引滿談風流

と然り談論花の如く政治を論ずるものなく風流韻事時の遷くるを覺へず主客十二分の歡を盡して散會せしは時正に十時近來の盛會なりき

●總督府と政府委員

今期議會に於ける總督府所管事務政府委員は鐵道局長官大屋權平、度支部長官荒井賢太郎、會計局長兒玉秀雄の三氏に仰付られたり

●總督領事團招宴

寺內總督は八日午後七時より在京城各國領事を官邸に招待し新年の宴を張る

●鮮銀三回拂込期

朝鮮銀行第三回株金拂込期は未だ確定せざるも政府持株三萬株に對する七十五萬圓は來年度の豫算に計上しあるを以て右は議會通過後卽ち四月末なるべし

●駐劄軍の閱兵式

八日は陸軍始めなるを以て駐劄軍にては京龍にある步、騎、砲、工、各隊及朝鮮步兵隊を龍山練兵場に召集して上田軍司令官は閱兵式を擧行したり當日は松永師團長病氣のため大島聯隊長諸兵を指揮したるが寺內總督、明石憲兵司令官其他の武官多數陪觀せり

●中橋商船社長談

中橋大阪商船會社長の記者に語りしもの左の如し

今回渡鮮の用向は客年十一月擧行された安奉線の開通式に臨まなかつた爲め同沿線を視察し兼ねて撫順を見聞せんが爲めである併し渡鮮の途中手頸に腫物が出來たので入京後之れが治療に空しく二三日を費したのが支障をなし拆柄十三日大阪の本店に重役會議があるので已むなく所期の視察を見合はし九日朝歸阪することゝしたナニ商船會社の朝鮮航路の概況は什麼かと……夫れは話が長くなるが要するに日露戰爭時代には乘客も多く航海數も多かつたが京釜線が開通してからはトント少なくなり四十一四十二の兩年は夥しい損失を來した併し其の後北西鮮の開發に伴ひ又々當時の盛運に立返り昨今にては航海數も戰爭時代と變りなく損失などは夢にも及ばぬが此の事は昨夜（七日）仁川有志の招宴の席上にて大に辯明し有志等も首肯するところがあつた夫れから質問の朝鮮沿岸小航路開始の計畫も一時は略ぼ物に成りかゝつたが種々調査研究の結果中止することゝしたといふのは本社の方針として小航路開始は將來可成やらぬといふこと、朝鮮では當分のところ利益が少ないといふ事である、ところで昨年の朝鮮航路全體の運賃收入は自分の豫想では百三十八萬圓から百四五十萬圓だらうと思ふ而して其の內大坂商船會社の分が約八十萬圓位だらうが更に其の八十萬圓の中實際朝鮮沿岸航路丈の收入はマツ十九萬圓だらうと思ふ此の位の收入では新參の會社などでは却々引き合つたものではない、却說話頭一變再前からの質問の朝鮮郵船會社の設立は自分の考へでは物になるだらうと思ふ……而し補助金二十四萬圓、大にヤルべしだ、話は少し前提になるが自分は日韓併合後東京で寺內總督に會ふた其の時總督は自分に這ふいふことを言ふた『我輩は今後朝鮮に一億萬圓の金を投じて產業の開發を圖る積りだ而して一億萬圓の中六千萬圓は鐵道に二千萬圓は道路に二千萬圓は港灣に費かふ方針だ』と成程夫れは結構だ又實際結構であると思ふた併し當時自分の考へでは鐵道、港灣、道路の修築、改築も可いがイクラ此の方面にのみ力を注いでも夫れと相俟つて海路に於ける交通政策を奬勵し實行しなければ完全に產業を開發することは不可能であると思ふた又眞乎ソウではあるまいか、されば當局にても爰に思を致して這回の郵船會社に補助を與ふることゝなつたのか什麼かは知らぬが若し果してソウ…すればイッソのこと當局の直營にしては什麼か、今郵船會社將來の收入豫定を聞くに經常收入三十七萬圓補助二十四萬圓計六十一萬圓ださうだが、船は却々金が掛るものだ此の六十一萬の收入を以て支出と相償つて行くか什麼かは大に疑問だ又此れ丈の收入が果してない時は什麼する海路交通政策は洵に憐れなものとなる……ナニ釜山の商船組は什麼するかと……那れは早晩廢めるつもりだ云々

各銀行會社營業成績（其三）

▽漢湖農工銀行△

四十四年下半期 …支配人久能省三氏談…

漢湖農工銀行に於ける四十四年下半期の本支店營業成績は預金總計百十萬五千〇四十六圓、貸出總計二百七十七萬八千七百三十八圓にして之れを前年同期に比較するに前年同期末現在の預金總計は百三十五萬五千九百七十四圓、貸出總計は百九十七萬五千九百八十八圓なれば預金に於ては二十五萬〇九百二十八圓の減額を示し又た貸出に於ては八十萬三千七百五十圓の增加を示すものなるが其の預金が斯く減少を來したるは恰も資金需要の頻繁なる期間あるに搗て、加へて同期末は米穀の買出產業熱の勃興等に依り鮮人間に於ける資金の需用著るしく增加したると共に銀行に於ては金利を引上げ又は貸出を手控ゐる等大に此等資金需要者に對つて警戒を加へたる結果として彼等鮮人企業家は金利比較的高率なる貸出金の供給を仰ぐに先ち出來得る丈け自已の預け入れ金を以て其の資金の需要を充たさんと計り盛に預金の引出を行ふに至りたるに原因するものにして其の減少を來したるは重に當座預金に限らるゝが如し又た同半期の利益金は四萬五千四百五十五圓九十二錢にして同年同期に比し二萬一千六百〇五圓十七錢の增を來し同行創立以來最も良好なる成績を示し居るが是れ資金需要の頻繁なりしが最大原因を成すとは言へ同行支店所在地方の鮮人等が漸く銀行なるものゝ性質を了解し盛んに之れが利用を試むるに至りしも亦大に與つて力ありといふ

●漢城手形組合總會

漢城手形組合にては來る十三日午後五時より明月館に於て[illegible]總會を開催[illegible]

●漢城手形昨年成績

漢城手形組合に於ける昨四十四年七月一日より十二月卅一日に至る下半季間の手形保證總額は九十七萬六千五百七十五圓にして其回收額は五十二萬二千三百〇五圓殘額四十五萬四千二百七十圓なりと

●地方に於ける清國商品

咸鏡南道惠山鎭地方に於ける清國より輸入する天竺木綿金巾類は清國動亂の影響を受けて一割五分方騰貴したるため賣行皆無の有樣なりと云ふ

●纛島の東拓移民

纛島に於ける東拓會社の移住農民は十八戶五十九人にして其耕地面積は畑二十町四反にして作物は大豆及び蔬菜最も良好にして麥は移住初年のことゝて春季蒔付に際し聊か遲延したるため成績不良なりしといふ

●澤代議士の仁川視察

國民黨に屬せる代議士澤來太郎氏は七日釜山より仁川に到着水津旅館に一泊市中視察をし八日午前入京せり

●鐵道局の記者招待

朝鮮鐵道局にては來る十日午後五時半より在京城新聞社長及び通信社長及特派員を掬翠樓に招待し新年宴會を催す由

●山根囑託の歸京

東上中なりし山根囑託は七日夜歸京せり

●大屋政府委員東上期

政府委員に任命せられたる鐵道局長官大屋權平氏は來る十五日頃當地出發東上すべしと

●宮尾氏の仁川視察

宮尾拓殖局部長は七日仁川市中の視察をなせり

●藤田總督府醫院長

は慈惠醫院巡視のため八日南大門發列車にて淸州に向へり

●關東人懇親會

當地在住關東人間に懇親會開催の議あり聞くところに因れば同會は只に關東出身者のみならず關東に籍を有し若しくは緣故を有するものを包含する筈にして極めて廣汎の意味を有するものなりと云ふ

●在鮮商議今後の運動

多年在鮮商業會議所聯合會の問題として當局に建議請願等種々運動に努め來りし朝鮮米穀移出關稅撤廢問題は遂に當局に於て昨冬撤廢のことに決定し今期の議會に提出さるゝことゝなりたるを以て京城日本人商業會議所にては六日附を以て此の旨各議員を始め在鮮各商業會議所及び東京、大坂、神戶の三商業會議所並に大坂貿易協會、兵庫朝鮮米穀商同業組合に通知し同時に移入稅撤廢に就ても將來大々的運動された[illegible]

●商議役員會の延期

既報八日午後五時開會の筈なりし京城日本人商業會議所役員會は都合に依り延期し兩三日中に開會すべしといふ

●宮尾拓殖局部長の巡視

宮尾拓殖局部長は六日午後二時より總督府醫院を巡視せり

●三宅判事昇任

京城控訴院部長三宅長策氏は客月二十五日付を以て高等官二等に昇任したるが同時に總督府檢事岩田孝慈氏も二等に昇任せり

●仁川の中橋氏宴

大阪商船會社長中橋德五郎氏は七日午後五時既報の如く仁川官民有志數十名を八阪樓に招待し盛宴を開き中橋氏の挨拶久水府尹の答辭あり十時散會す

●咸北の眞珠採取

咸鏡北道清津沿岸に於て採取せらるゝ眞珠は小豆大のものにて一個一圓乃至二圓に過ぎず昨年中百三十余個を採取し未た常業者は無之も將來有望ならんといふ

●朝鮮セメント

昨年下半期間に於て小野田セメント會社臭水分工場にて製造したるセメントの數量は八萬樽にして本年度製產豫算は二十萬樽の見込なりと而して安奉線工事終了と共に南滿州に於ける需要は著しく減少を見るべきも朝鮮鐵道中京元湖南兩線工事用として需要起りたるにより本年度製產額も亦賣殘るが如きこと無かるべしといふ朝鮮滿州以外の需要地としての上海は革命亂の爲め一頓挫を來したるも平和の克復せば相當の供給地たるべく又本年の經驗によれば青島方面に向けても相應賣行の見込ありと

●古物商組合の認可

豫て認可申請中なりし京城古物商組合設立の件は愈許可となりたるを以て同組合員等は八日午後二時より掬翠に於て披露宴を催したりと

●菓子商組合發會式

京城菓子商は過般來組合組織に就て其筋に出願中の處此程許可となりしに付八日午後六時より掬翠樓に各新聞社長其他を招待し盛なる發會式を擧げたり

●愛婦會の名刺交換會

愛國婦人會朝鮮本部役員有志は例年の通七日午後二時より京城ホテルに於て新年名刺交換會を開き來會の夫人等五十余名にして頗る盛會を極め啻一派の琴曲合奏蓄音器の余興ありて一同歡興を盡し四時過散會す

●朝鮮通信社の移轉

朝鮮通信社は今回南山町三丁目七番戶に移轉せり

●滿鮮直通列車乘客

六日午後八時二十分南大門發長春行列車には日本人四名西洋人二名乘込み七日午前一時三十分長春發南大門着列車には一名の乘員もなかりしと

●朝鮮銀行券發行高週報

十二月三十一日より一月六日に至るもの左の如し

銀行券總發行平均高	二四、七六五、〇四〇
內 正貨準備平均高	八、八六〇、二七六
保證準備平均高	一五、九〇三、七六四

公人私人

▲宮尾舜治（拓殖局部長） 八日夜東上
▲中橋德五郎（大阪商船社長） 九日朝大阪行
▲德宮猪一郎（國民社長） 七日夜入京
▲市原時雄（大阪商船鎭南浦支店長） 同天眞樓

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
一月八日	二五七、九八〇、四八〇	九八三

▲治外法權▼

去る六日の夜寺內總督が、當地新聞記者團を招いて新年宴會を其官邸に開いた、御馳走は言ふまでもなく手製の西洋料理で極の上等とは言はないが何かなしに客には皆く喰へた▲ト云ふのも外ではない總督は此頃大分開けて來て、人に御馳走するのは飲食物の吟味ではなくて、主人の誠意と云ふものが第一であると云ふことに氣が附かれたからだ▲當夜總督は昨年の夫れの時とは違ひ大に碎けて而かも新聞記者向きの挨拶を爲した、之を以て見るも人間は勉めさへすれば〆繩を繰る毎に必ず進歩するものだと云ふ事が明かに判る▲總督挨拶中に挾んで曰く、既往一ヶ年中貿易額の增加は著しいものだ、併し大勢が移輸入の超過にあるは甚だ遺憾であると▲亦た曰く、併し移入超過の物品は鐵道の材料とか、器械とか乃至綿布とかで、何れも生產的のもの許りだと▲右は總督の言ではあるが「乍失禮大間違ひだ」見よ過日の本紙に掲げた通り移入超過の第一位は綿布で、其金額千二十六萬圓餘、次が雜品の八百九十萬圓で、第三が小包郵便物の三百五十五萬圓餘だ、思ふに雜品とか小包郵便物とかに鐵道用品とか器械類とか云ふものはなければ右は何れも不生產一時的消費品だ▲第四位が飲食物の三百九萬圓、第五が綿絲の二百四十萬圓で、總督の特に擧げた鐵道用品の車輛とか船舶とか云ふものは僅かに百二十一萬圓で、鐵と鋼とが之亦た僅かに百八十六萬圓で、學術品及器械類と云ふのが百六十萬圓足らずだ▲度支部の貿易表がコンナに明瞭に數字と品名とを公にして居ても、總督は尙且つ辨を弄して移入超過品は生產的だの移入超過は民力の增加だのと辻褄の合はぬ熱を吹いて經濟の理法に降參せぬことが實なりかドーカ▲京城取引所設立の運動は益々續けてヤルが良い、見よ難攻不落の旅順でさへ落ちたではないか、見よ、仁川の築港でさへ出來るではないか、見よ、孫逸仙が大統領になつたではないか。

●鴨綠江の橋と氷（三）

天眞生

風北よりして矢の如く煤烟窓を打つて琅々の響あり、熱し温し暖しと云ひ續け居たる田中氏は遂く去らて袒を脫きて襯衣を脫しつ『寒いだらうと思つて着込んで來たものだから』と云ふ、少々大層らしい熱がり樣と思つて居た僕も全く少し熱くなりてシャツの毛のシトシトと肌に快からず、ツト起ち上りて眼の前に掛けられたる寒暖計を見る華氏七十度を示す、七十度と云へば五六月の候なり成程乘組みの人の熱いと云ふも無理ならずと思ひつゝ又見上げたる眼に入りたるは**奇怪なる五寸釘、寒暖計**は即ち此に掛けられたるなり、ア、微瑕をだに厭ふ瀛車客室內の乘客が出入繁き眼に着き易き場所に麗々しき五寸釘、敢て審美眼もて見ざるも餘りに美術的ならざるを嫌む、之を當路者に聽く、鐵道廳には車室掛とか何とか掛とか云ふ者ありて常に注意を怠らずと號せりと、客車內の五寸釘、彼等の眼にも映ずべしと思はるゝにさて少々餘裕ある頭腦には美とも不似合とも判斷されぬと覺ねたり、案內掛は只腕に赤き布卷きたるのみにて控所に腰打掛けて僕が立ちて外の方の說明を求むるも快くは答へず問ふ事にのみ答ねて他を語らず、之れを他に聞く、內地山陽線邊りの案內掛は附近の名山名所を指示して大に案內掛の本領を發揮すとか、斯くてこそ〳〵案內掛の必要こそあれ、今此線の案內掛の如くんば**活動する此給仕のみにて可**なり、給仕名を知らず年齡十八九にやあらん白面にして皓齒、娘の嫖に欲しい男振りなり、燐寸を擦つて洋燈に火を入る汝山隧道に近付きたるなり、隧道を出で、暫時にして**臨津江**を渡る江心全く氷せずやあらん**氷上人影無**く白沮々として遠く碧空に朝す、驛は近く廢止せらるべしと、民家疎々たり、長湍に入る、地は**朝鮮有數の大豆產地**なり田園大に潤け地又肥ねたりと、開城は流石に高麗朝の帝都たりし丈ありて繁榮とにはあらざるも猶樓臺の丹碧色褪せず主要都市の一たるを失はず、日人戶數四百人口二千に餘るど彩霞洞、滿月臺の勝も見ず、人蔘の匂も嗅がずして土城に向ふ、途にして思ふらく、嗚呼彼の開城の人蔘や古來幾多の我孝女節婦を泣かしたるぞ**靈藥多くして死に危懼多く、政嚴にして民に罪多**し、重箱の隅を楊枝にてつゝく汚漸く去りて穴の穿たれしを見るべし、人參や人蔘や汝幾人を救ひ幾人を殺したる、功罪相償ふや、否や、ア、、ア、政治を行ふもの又此用意を失ふ可らず、瀛車は土城驛に近く、動き返されし田の畝に餌をや漁りてありけん豚の子と犬の子とが瀛車の音に頗る驚いたらしく混雜して畝越ね溝越へ轉がる如くに逃ぐ、要するに瀛車は此邊でもチョイ〳〵人間や何かを轢くと覺ねたり、犬でさへ豚でさへアノ通りに瀛車を恐れる處を見ると**瀛車の怖ろしさ加減は察せらる、**

トーヤチセキのケーヂヤセキ
と遊ぶ君ケ御代

土城に着す、同時に着したる上り列車の未だ停らざるに印半纏着たる男の飛降りたるが足をスクはれてベタリと座る、急がしく四邊見廻はして『エッヘッ』と夫れ程可笑いしとは思はぬ醜體なり、

●辰市本丸喚問さる

▽不德義極る事件にて

大和町二丁目に住宅を有し鐘路に事務所を有する辯護士辰市本丸が法學士の肩書を有するよりして辯護士は法學士に限ると暗に法學士以外は駄目なりと云ぬ許りの不謹愼なる行動及其他に付兎角の評絕へざりしが茲に同人が辯護士としてあるまじき不謹愼極る行爲こそあれ事件發生の動機は明治町一丁目に有價證券株式仲買其他現物賣買業の看板を掲げ大坂に本店を有せし西村支店なるものあり昨年八月上旬迄支店主任に山本權助なる者ありて本支店と連絡を通じ一般事務取扱ひ居たり然るに山本が花柳の巷に入り放漫浮逸の結果取引客に不都合を生じ將さに刑法上の罪人とならんとし本店に對しては訴訟起らんとする場合大坂の本店より整理に出張し夫々整理の上西村義之なる者支店主任となり從前通り營業を繼續するに至り八月中旬西村は當地南山町松葉亭に重なる取引客及各新聞記者を招待し披露の宴を開きたり扨其後取引客の一人なる太平町一丁目野村祐治なる人に對する株式賣買精算支拂金四百二十一圓六十錢（內證據金としての預金百五十圓あり）を一定の契約期日に西村義之より支拂はざるより野村祐治は石塚嘉弌氏を訴訟代理人として京城地方裁判所に株式賣買精算金請求の訴訟を提起せり之に對して西村は辰市辯護士と親族關係あるより同人に相談せしに當然支拂義務あるは小學生徒でも判然する事件ながら法廷で爭へば勝訴す可しと引受け委任狀を取り被告西村義之の訴訟代理人として堂々と法廷に出廷せしが如何な法學士辯護士殿も明白なる證據を見ては唖とも云へず早速原告訴訟代理人に對し被告西村は自分の親族關係あるから必ず支拂す可しと示談申込みしかば原告代理人は斯くと原告本人と相談の上和解す可く一決し辯論期日を延期し居たるに今日だ明日だと支拂を延引する內十二月上旬彼の仲買人家宅搜索一件以來西村は辰市と相談の上でか行衛を晦したれば原告の方にては止むなく訴訟を進行するに至りしが今度は辰市は法廷に出ずして永井道忠と云ふ辯護士を副代理人とし法廷に出廷せしめ事實を否認せしめしより爭訟となりしに原告より辰市辯護士を證人として喚問申請するに至り元來辯護士は民事事件に關しては裁判所も可成證人に喚問せざる方針なるも事情仕方なく喚問に決定し來る十二日訊問ある筈なれば愈々右一件判明の上は檢事正より懲戒處分受くるならんとか

●艶子山琵琶寺

▽建立の大檀越は誰か

明治四十五年一月五日午後八時ウヰスキーベルモットの藥酒も其効なく風水る漢江江畔八景園樓上に物故したる元花月の名妓艶子、生後僅に二十五歲此からがさ云ふ所でボックリの**大往生**、下世話には之をた芽出度くなつたと申すとかれ芽出度いかれ芽出度いか、シク〳〵と活きて居て捨てた殿御の御全盛を見てヤキモキと昔の夢に憧れつゝ瞋恚の焔を燃して居るより身を一片の茶毘に附して百八の煩惱を鳥部野の煙となすこそ成程芽出度う候なり、異や本來無東西何處有南北逝きし人の如何で殘れる情人を怨まんや、然りながら迷ひを生に懐く凡人の彼の嬌艶なる俠情女が紅顏色褪せて白蠟の如く玉の柔肌冷たきこと大理石像の如くなりしと聽きては一掬の熱淚なきを得んや、今は昔、安宅の關に辨慶の勸進帳と名付けつゝ讀み上げたりと聞ゆし文句にも**最愛の女に袂**れ玉ふて別離の哀情止めかね**一寺**宇建立を覺し召し立たせ玉ひぬざあり、夫れ既に然り艶子在世の砌り此が佛陀的の濟度を受けしもの數多ければ豈に一人の一寺宇建立を思ひ立たざらめやはと思ひし我等の推量は違はず別府溫泉入浴中信心肝に銘し**五百圓の祠堂金**を絞られし休職佐賀縣知事現在東拓理事從四位勳四等**井上孝哉**氏第一番に斯くと思ひ立ち淨財喜捨の準備中なるが斯くと聞かれし倭城台赤煉瓦の殿樣『別して有緣の吾等なり我れこそ建立の大檀越たるべけれ』と思し召し立たせられ目下暗々裡に競爭中なりと艶子たるもの又死して餘榮ありと云ふべし因に本尊は彼が遺愛の琵琶とし開幕は櫻川圓好坊なるべしと南無多毛院殿櫛卷琵琶彈大姉パラン〳〵

●龍山の觀兵式

▽寺內總督も臨場

本年陸軍始觀兵式は八日午前九時新龍山漢江通り練兵場に於て擧行せられたり是より先陸軍野砲二聯隊第一中隊騎兵第二聯隊第一中隊六十五聯隊第一大隊朝鮮步騎兵は早く既に出場整列せるに寺內總督上田司令官松永師團長は馬車にて臨場せられ直ちに觀兵の式を最も莊嚴に擧げられたり此日天氣晴朗早天霜柱を踏で此式を觀覽せんとて或は電車にて或は徒步にて集るもの堵の如く朗々たる喇叭の音と樂隊の奏樂により步砲騎の各兵は一發の號令と共に分列式を始め旭旗と軍旗は互に交叉して銃劍は銃劍と相映じ一糸亂れざる行動は見るものをして一種崇高の念に打たれしめき

●感心な警察官

▽不感心な古物商

廣島縣人當時本町七丁目九十二番戶古物商宮岡武三郎(三三)は七日午後九時半頃酩酊して新町遊廓に素見しに行く途中大和新地入口にて太平町太平館止宿內田定吉(二八)と突當り互に爭論の結果派出所に持出し警官が說諭の際硝子戶三枚を打破りたるも人民保護の本職に基き靜かに訓戒し放免したりとは感心な警官かな

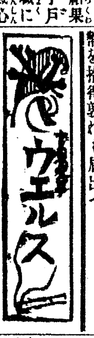
●女郎泣かせの男 名古屋市押切町八丁目當時住所不定坂東庄太郎(二四)は一定の職業なく素行不良にして賭博を常習さする無賴漢なるのみならず新町大和新地南海樓福本樓等に於て身分不相應の遊興を爲し擧動不審なるより南部署岸佐藤長野の三刑事注意中の處昨年十一月上旬大和新地東雲樓娼妓岡田コトより帶の洗張り同岩下とみより絹立縞羽織の洗張りを托されしを何れも横領入質し[illegible]三丁目[illegible]方に忍入り衣類數點を窃取し入質費消したる事あるを探知し本署に引致し目下取調中なり

●仁川娼妓のドロン 仁川敷島新地遊廓開進亭事伊藤忠太郎は舊臘三十一日宮町三丁目口入業伊藤仲太郎の周旋にて原籍兵庫縣生木山コヨシ(二九)を八十五圓にて娼妓に抱ね已に現金の支拂を爲し其筋へ正規の手續を爲さんとし居たる間もなく去二日の眞夜中コヨシは何方へか逃走せしより同亭にては大騒ぎをなし目下搜索中なりとか

●山內兼吉の公判 鑛山町山內兼吉が強盜被告人金佐鎭の控訴事件に關し判檢事辯護士に對し無罪判決あるべき運動費なりと稱し金佐鎭の親族より金數百圓を詐欺したる事件は來る十二日午前十時より京城地方裁判所刑事部法廷に於て塚原裁判長の係り兩角檢事立會の下に公判開廷せらる可く當日被告辯護人として辯護士小川勝平氏出廷す可しと

●十圓宛のお灸 兵庫縣生れ當時龍山桃山無番戶無職大江益藏(四一)同兵庫縣生れ大島町四十五番戶無職本岡喜介(三九)佐賀縣生れ白濱町秀島彌八(三八)は過日賭博中を其筋に認められ直ちに檢擧せられたるが八日龍山署に於て各罰金十圓に處せられたり

●仁川の遺失と拾得 仁川新町三丁目高木助市は六日十七形金側懷中時計純金鎖付代二百圓を紛失▲同町一丁目松田龜太郎は七日五圓餘入の皮財布を紛失▲本町四丁目石田繁藏は六日五圓紙幣を拾得孰れも屆出づ



●十圓八十錢喰逃 原籍長崎縣生松井金吾(三九)は昨年十一月二十五日仁川松坂町二丁目下宿屋今戶松吉方に止宿中一文も支拂せず七日十圓八十錢の喰逃げをなす

●突當つて亂暴す 西部麻浦二十二統五戶明光業(二二)は旭町一丁目泉川ミヨ(三四)が旭町一丁目街路を通行の際突當り暴行を働き目下取調中

●演藝だより

▲浪花館 圓若一行にて每夜の好人氣[illegible]るべしさいふ
▲歌舞伎座 九、十兩日の代狂言は『松風村雨』『一切喜劇』『明治の左甚五郎』
▲壽座 若島屋一行九十兩日の代狂言は前『有職鎌倉山』切『再會御氏大藏卿』なりと極めて華々しき事也
▲御成座 新派劇にて藝題は『義勇平野辯平百年仇』なりと云ふ

平民文庫

▲朝鮮銀行の正貨準備の缺乏は事實なんだ事實なんだ眞實なんだ二十七日附の御用紙京城日報第二面に左樣出てるから什方がない曰く『朝鮮銀行は正貨補充の必要上第三回株金拂込みに決したるも發表期は未定なり』と極印付の正貨缺乏だ▲夫に就ても惜しいのは濟津の砂金礦だ同津理立土砂に代用されてる相だ、噓ぢやない京城日報を見ろ▲一方に正貨準備に缺乏してる銀行があるかと思ふと一方には一旦定つた事だからとて砂金を以て海を埋めて居る▲此程規律的な軍隊的な大盤石の頭腦を持て居るものも少なからう▲僕の親爺は百姓の所爲だらう斯う云ふ事を聞くと『少し悧巧でね』とヨータ言ひ言ひしたもんだ▲夫と云ふのも自分の身代だつたからだらう、自分のものなら惜しいのが當然だ▲アーアッ(土百姓)▲大に舊くなりました(係)▲聯合大賣出しの景品は四十圓が四十本の二十圓が四十本だの申すが賣れなかつたとやらで事務所へ殘つてるのや店屋に殘つてるのが澤山あるのだと然らば客には廣告してる丈の數は出して居らぬのだ儲けて居るのは誰だい(一商人)▲清國奉天小西門外金城館金彌より畠山一夫樣へよろしくと言傳られましたが御住所が不明ぬから平民文庫を拜借して(一旅客)▲僕は昨年末本町○丁目附近の○村とか云ふ家の店頭で十六七の娘さんが若い男と火鉢を間に泣きながら人目を忍んで話して居た若い時分有り勝な無分別な事はたしよ(寶見生)▲冬の海渡るに船のおそろしと賀龍してまゐる雪の峠路▲沈み行く夜いましむる拍子木にもの皆氷る冬の夜かな▲古つゝら寒さかさねになき母の小袖とりいで涙するかな▲霜柱淺きに朝の野はあけて兎追ふとて山越へてけり(京城黃金町野尻逸也)▲先頃京城檢番より現はれたる市丸妹一駒は明治町三丁目東拓會社の附近にて古道具屋店を營業したる飯田の內儀さんなるに立派な身主の有る身にて何故に藝妓たる說奇怪々々(不思議生)